ラサ工業株式会社

2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2025年11月13日

証券コード：4022

目　　次

1. 事業概要

2. 2026年3月期 第2四半期（中間期）実績

1. 事業概要

事業概要

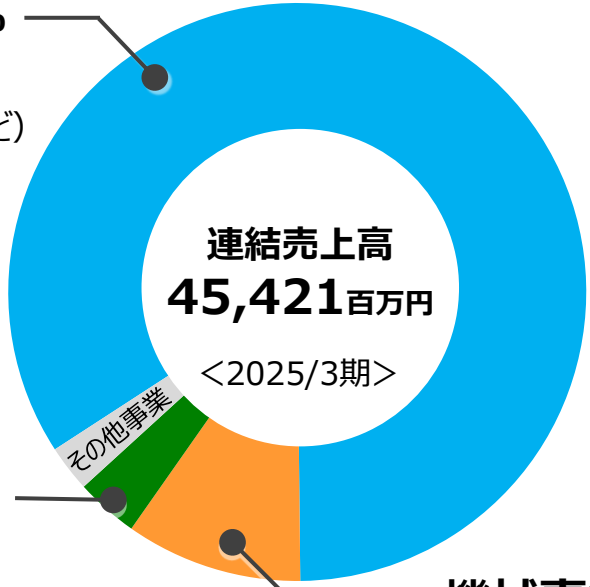
会社概要

商　号	ラサ工業株式会社
本　社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創　業	1913（大正2）年 5月 1日
設　立	1918（大正7）年 6月 26日
従業員数	628名（連結）　<2025年3月31日現在>

▶半導体向け高純度リン酸の製造体制

化成品事業　38,168百万円／84.0%

- リン系製品
  - リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
  - リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、消臭剤など）



電子材料事業　1,574百万円／3.5%

- 化合物半導体向け高純度無機素材
  （ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

機械事業　4,491百万円／9.9%

- 建設機械（破砕機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

2. 2026年3月期 第2四半期（中間期）実績

2026年3月期第2四半期（中間期） 決算概要

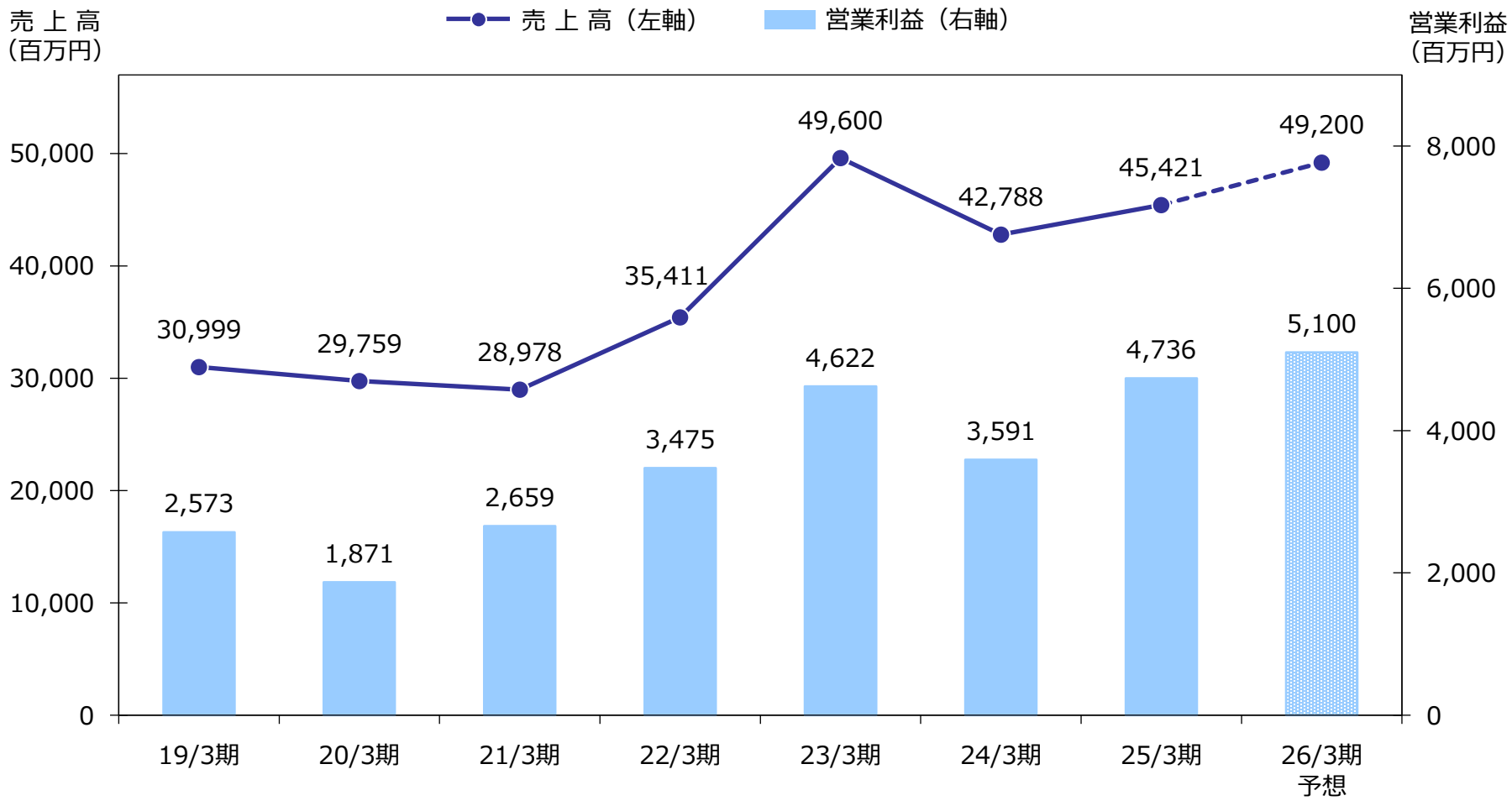
- 売上高は、機械事業は減収となった一方、化成品事業、電子材料事業では増収となり、全体では3.9%の増収。
- 営業利益は、半導体関連向け製品が海外向けや化合物半導体向けを中心に堅調に推移したことに加え、前期の機械事業の棚卸資産評価損が無かったことを主因として、68.5%の増益。

（単位：百万円）

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減	前年同期比	中間期 期初予想	増減
売　上　高	21,849	22,698	848	3.9%	24,000	△ 1,302
営 業 利 益	1,697	2,860	1,162	68.5%	2,500	360
経 常 利 益	1,612	2,950	1,337	82.9%	2,400	550
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	973	2,046	1,073	110.3%	1,600	446
（減価償却費）	940	875	△ 65	△ 6.9%		

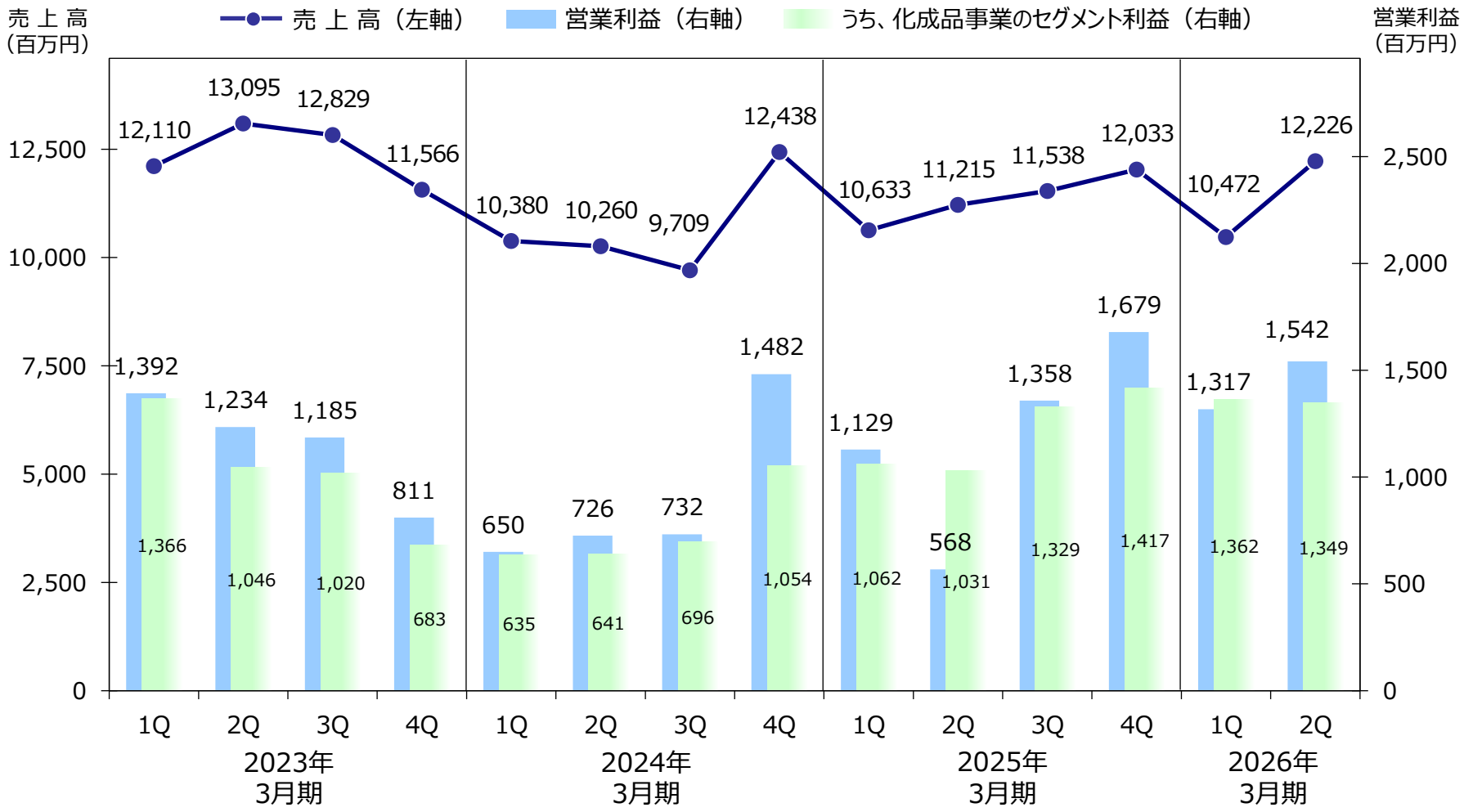
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移

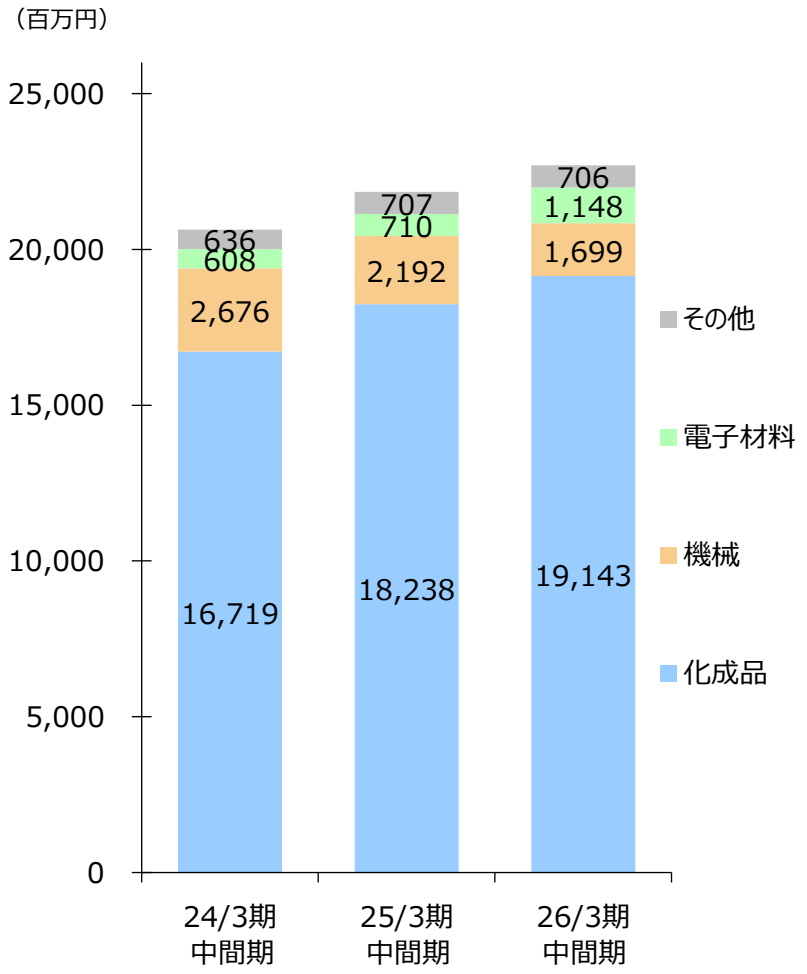


2026年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

（単位：百万円）

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減	前年 同期比
化　成　品	18,238	19,143	905	5.0%
機　　械	2,192	1,699	△ 492	△ 22.5%
電 子 材 料	710	1,148	437	61.6%
そ　の　他	707	706	△ 1	△ 0.1%
合　　計	21,849	22,698	848	3.9%

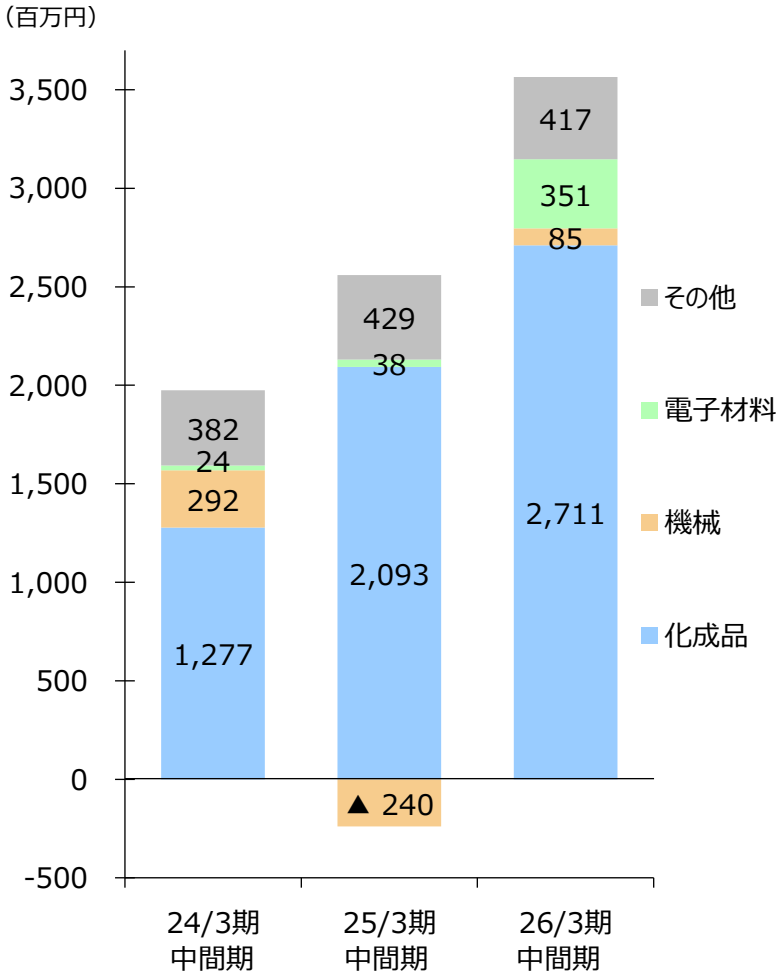


2026年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

（単位：百万円）

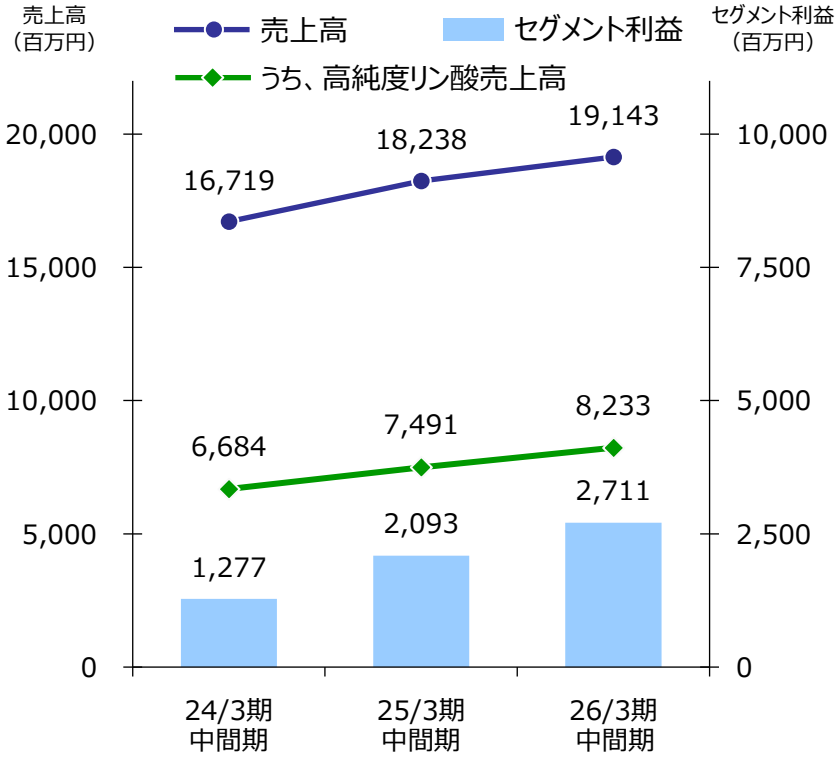
	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減	前年 同期比
化　成　品	2,093	2,711	617	29.5%
機　　械	△ 240	85	326	黒字転換
電 子 材 料	38	351	312	805.2%
そ　の　他	429	417	△ 11	△ 2.7%
（ 調 整 額 ）	△ 623	△ 705	△ 82	–
合　　計	1,697	2,860	1,162	68.5%



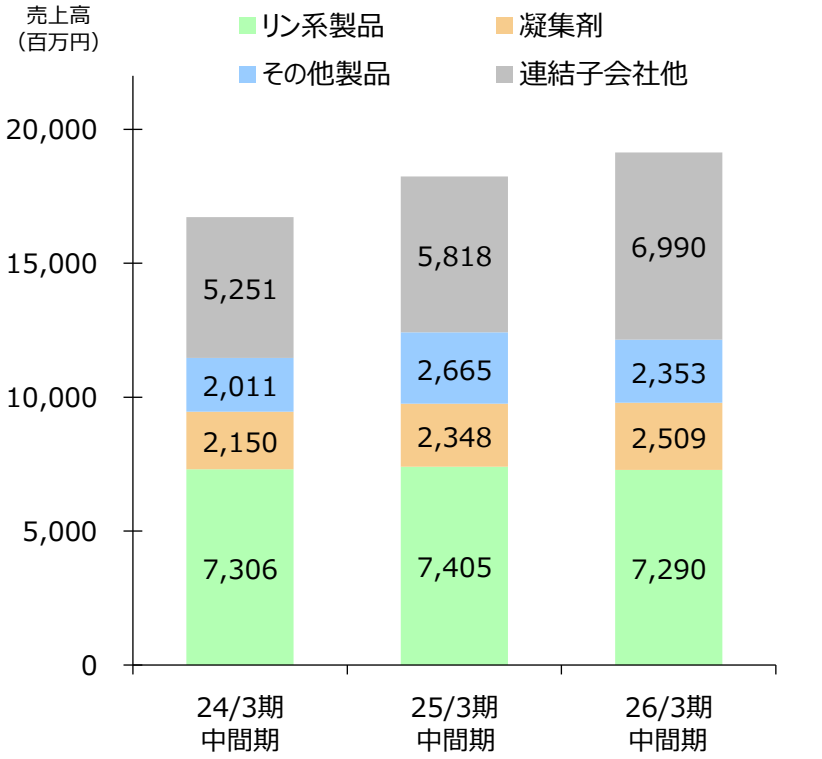
化成品事業

- リン系製品は、一般品向けと国内向け高純度リン酸が減収となり、全体で減収。半導体向け高純度リン酸は、海外の連結子会社が堅調に推移し、全体では増収。
- 凝集剤は、電子部品のエッチング用途向けは減収となったが、上水道向け製品が堅調に推移し、全体では増収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料は減収、消臭剤は増収。全体では減収。
- 営業利益は、半導体向け高純度品の海外向けや上水道向け製品を中心に堅調に推移したことを主因として、617百万円（+29.5%）の増益。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

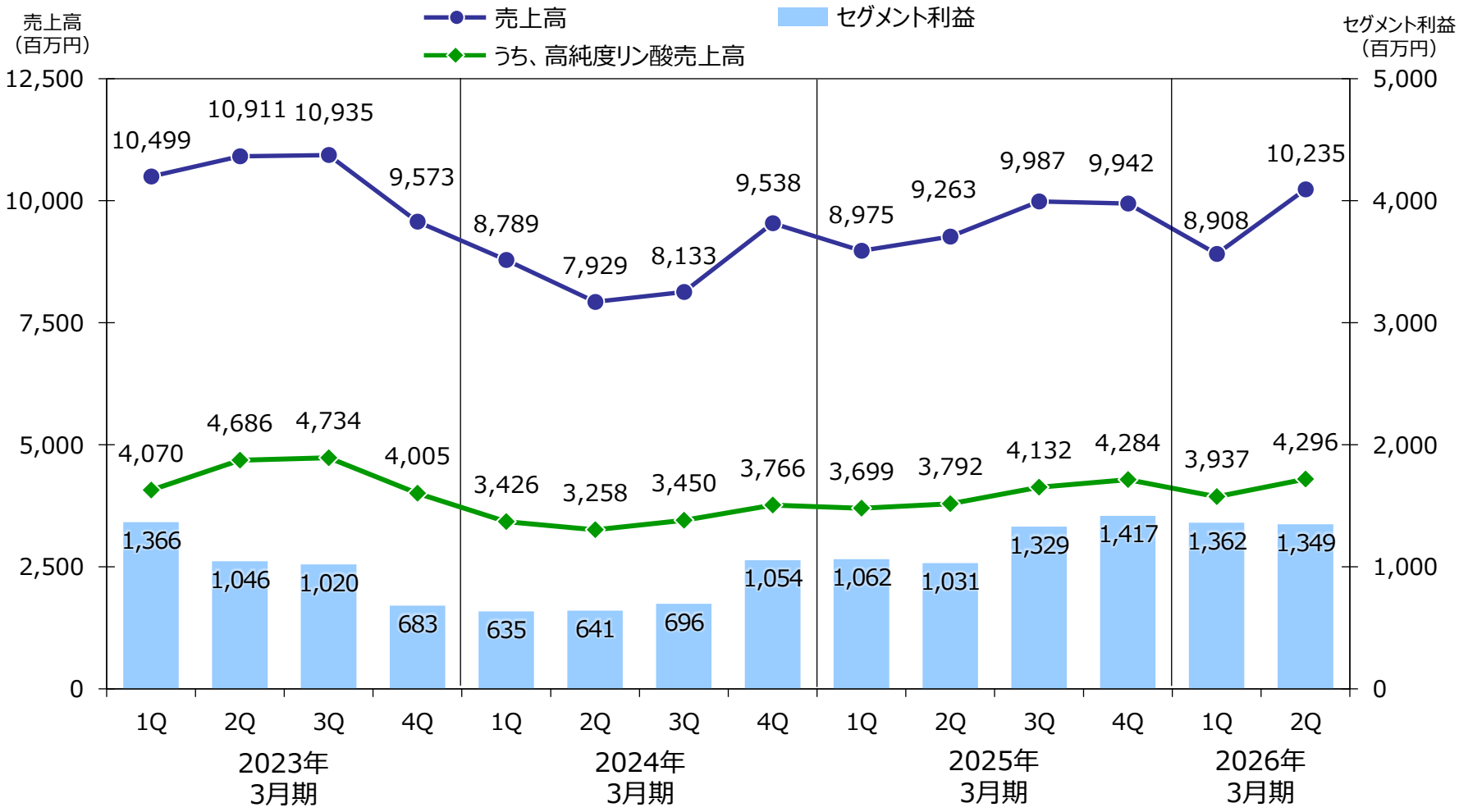


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

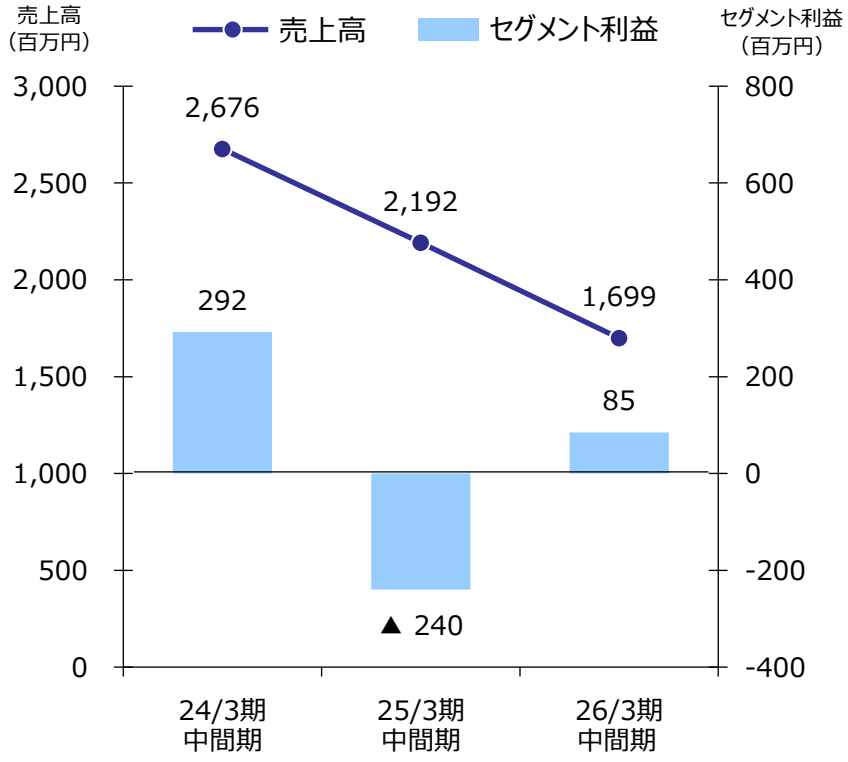
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



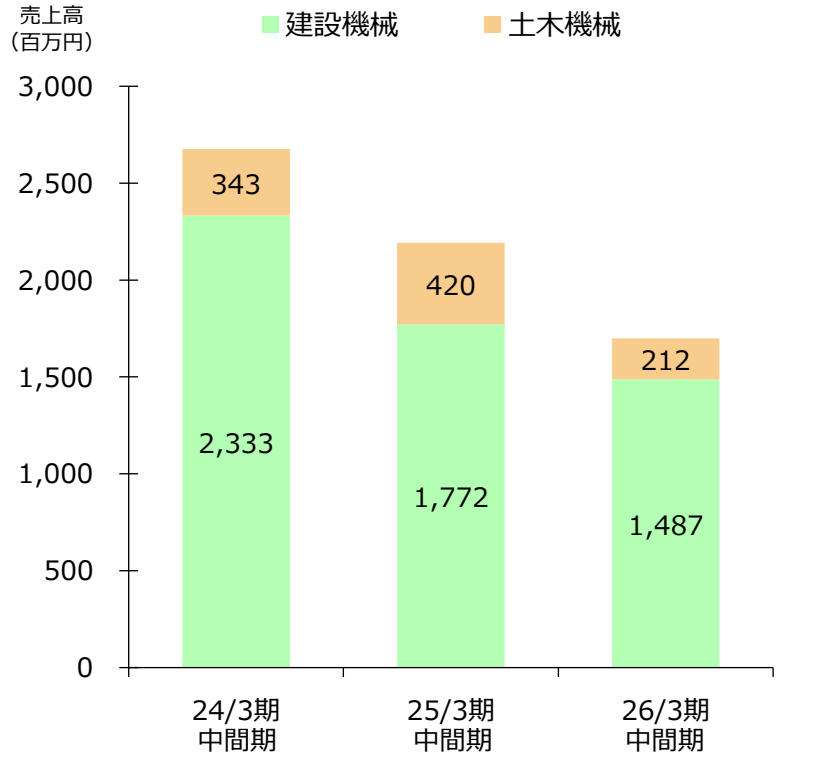
機械事業

- 建設機械は、本体販売や消耗部品販売、プラント販売でいずれも減収となり、精密機械加工は増収となったが、全体では減収。
- 土木機械は、下水道関連向け掘進機は本体販売が減収となり、レンタル物件は増収となったが、全体では減収。
- 営業利益は、前期の棚卸資産評価損がなかったことから、326百万円の大幅増益。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

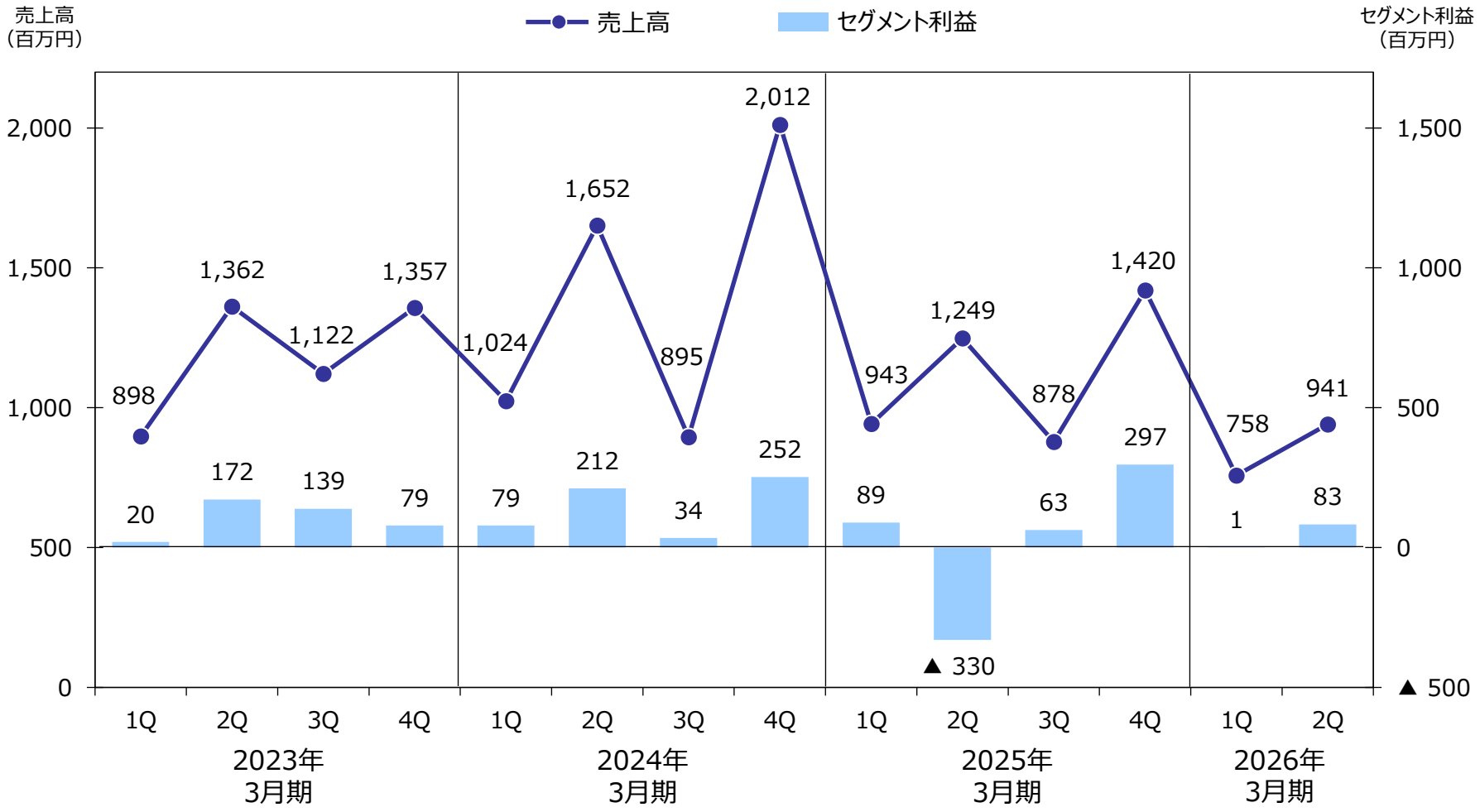


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

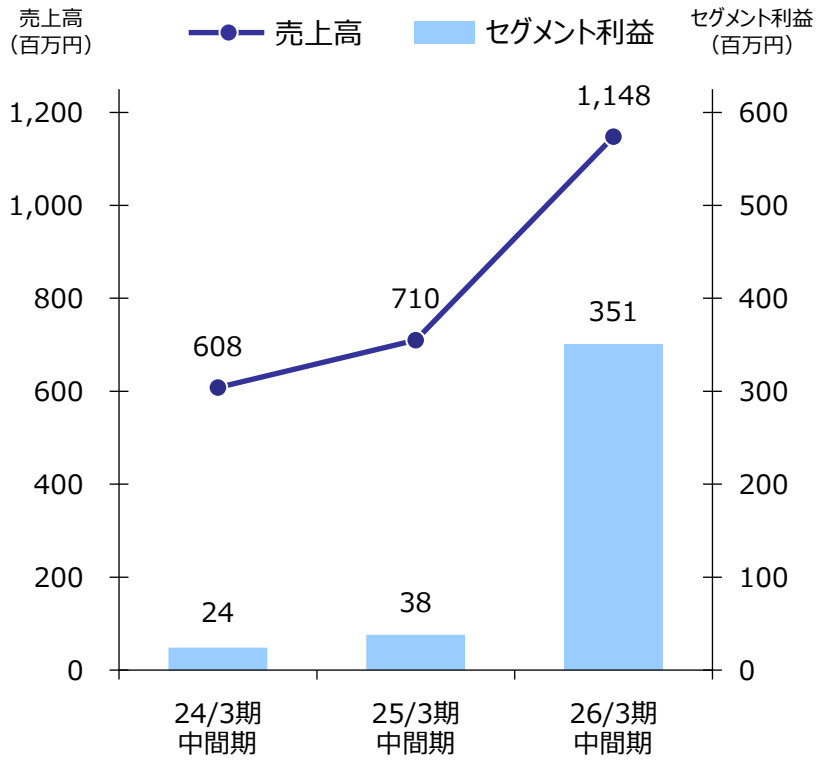
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



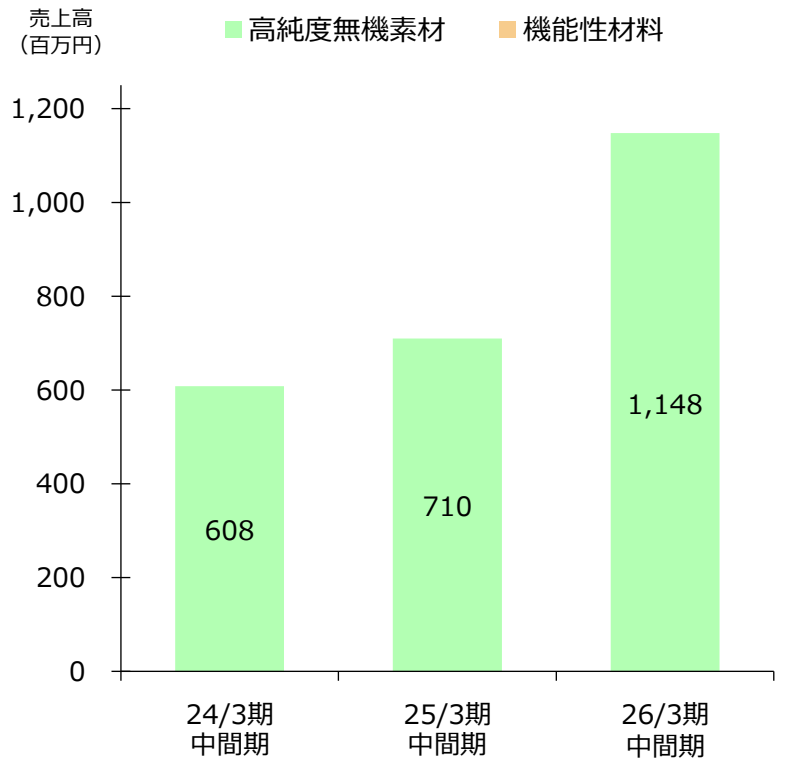
電子材料事業

- 化合物半導体向け高純度無機素材は、化合物半導体市況が堅調に推移し、インジウムは増収、ガリウムはスポット販売もあり大きく増収。全体では61.6%の増収。
- 営業利益は、増収に伴い、312百万円（+805.2%）の大幅増益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

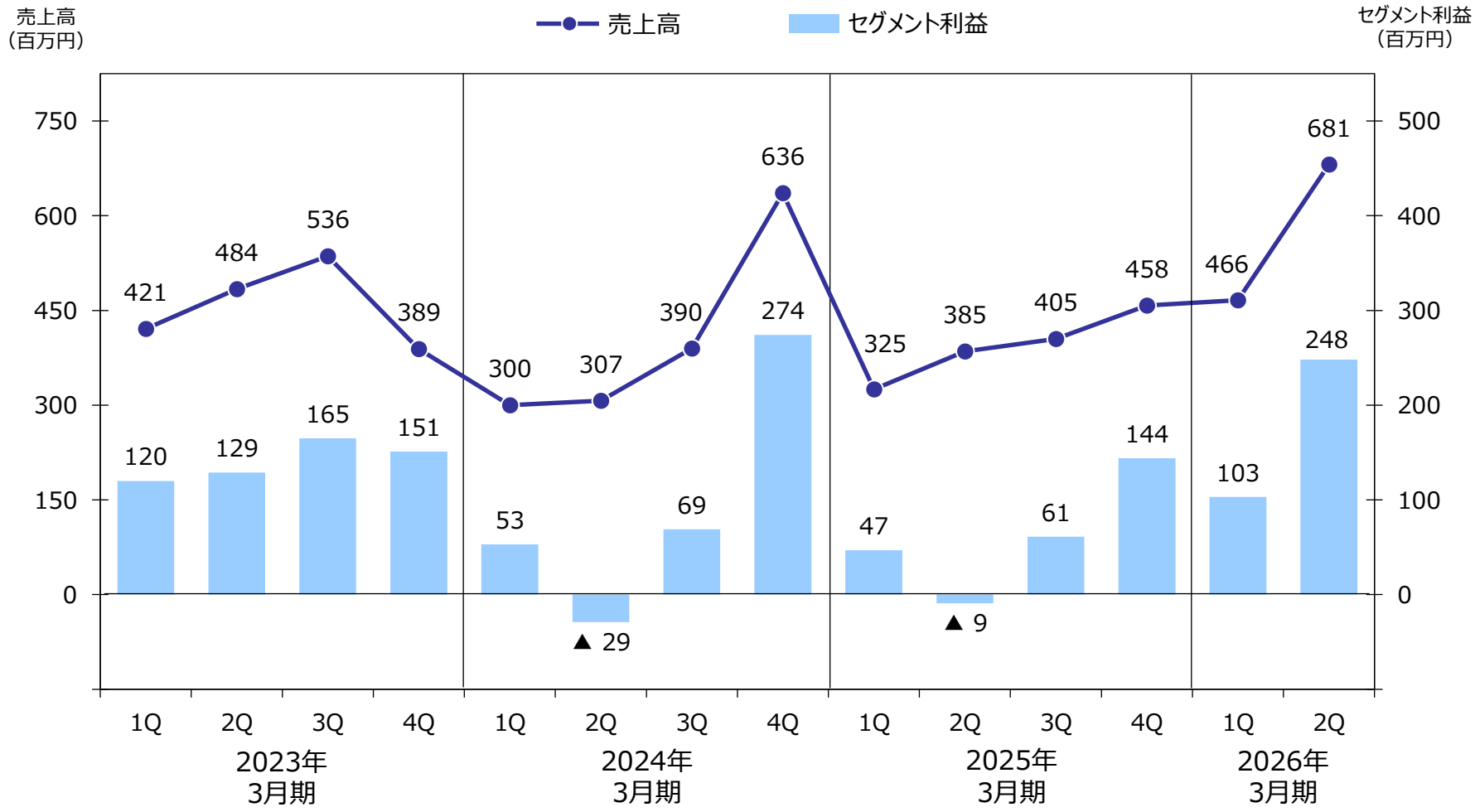


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減	前年同期比
売上高	21,849	22,698	848	3.9%
売上原価	17,634	17,351	△ 282	△ 1.6%
販売費・一般管理費	2,516	2,485	△ 31	△ 1.2%
営業利益	1,697	2,860	1,162	68.5%
営業外収益	94	257	162	171.6%
営業外費用	180	168	△ 11	△ 6.2%
経常利益	1,612	2,950	1,337	82.9%
特別利益	–	–	–	–
特別損失	6	–	△ 6	–
税金等調整前中間純利益	1,606	2,950	1,343	83.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	973	2,046	1,073	110.3%
（減価償却費）	940	875	△ 65	△ 6.9%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2025/3月末	2025/9月末	増減
流動資産	23,581	23,639	58
現金及び預金	5,054	4,591	△ 463
受取手形及び売掛金	11,665	11,440	△ 225
棚卸資産 ※	6,518	7,213	694
固定資産	22,257	23,443	1,186
有形固定資産	17,828	18,840	1,011
無形固定資産	45	46	0
投資その他の資産	4,382	4,557	174
資産合計	45,838	47,083	1,245
流動負債	11,004	11,299	294
支払手形及び買掛金	3,441	3,581	139
短期借入金	4,342	4,382	40
固定負債	6,956	6,053	△ 902
長期借入金	3,996	3,004	△ 992
退職給付に係る負債	2,549	2,549	△ 0
純資産合計	27,877	29,730	1,853
株主資本	26,088	27,594	1,506
その他の包括利益累計額	1,789	2,135	346
＜自己資本比率＞	60.8%	63.1%	2.3%

※ 棚卸資産＝商品及び製品＋ 仕掛品＋ 原材料及び貯蔵品

2026年3月期の業績予想

- 中間期実績は、売上高では期初予想を5.4%下回ったが、営業利益では期初予想を14.4%上回る。化成品事業と電子材料事業では半導体関連市況の回復基調から堅調な業績となった（化成品事業の上期営業利益の通期予想比進捗率は53.2%、電子材料事業の上期営業利益はスポット販売もあり通期予想を151百万円上回る進捗）。
- 通期業績予想は、期初予想を据え置きとしているが、下期も堅調な業績が継続する見通し。

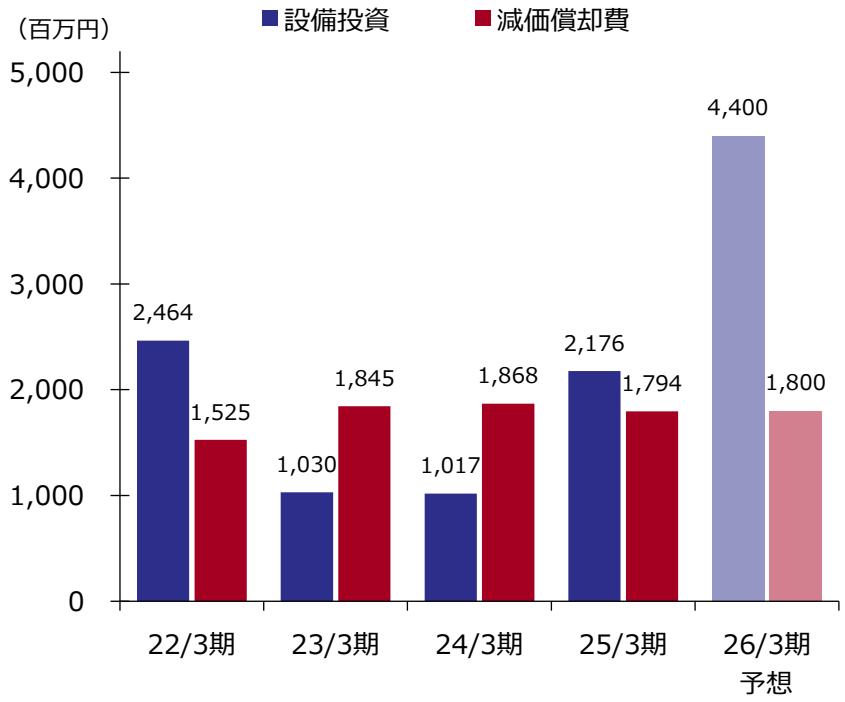
（参考）期初予想セグメント内訳（2025年5月14日開示）　（単位：百万円）

	2025/3期	2026/3期予想	増減	前年同期比
売 上 高	45,421	49,200	3,778	8.3%
化成品事業	38,168	42,000	3,831	10.0%
機械事業	4,491	4,500	8	0.2%
電子材料事業	1,574	1,600	25	1.6%
その他の事業	1,186	1,100	△ 86	△ 7.3%
営業利益	4,736	5,100	363	7.7%
化成品事業	4,840	5,100	259	5.4%
機械事業	119	400	280	235.6%
電子材料事業	244	200	△ 44	△ 18.1%
その他の事業	764	700	△ 64	△ 8.4%
全社費用など	△ 1,232	△ 1,300	△ 67	5.5%
経常利益	4,602	4,900	297	6.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,131	3,300	168	5.4%
1株配当金	120円	128円	8円	6.7%
想定為替レート		145円/USD		

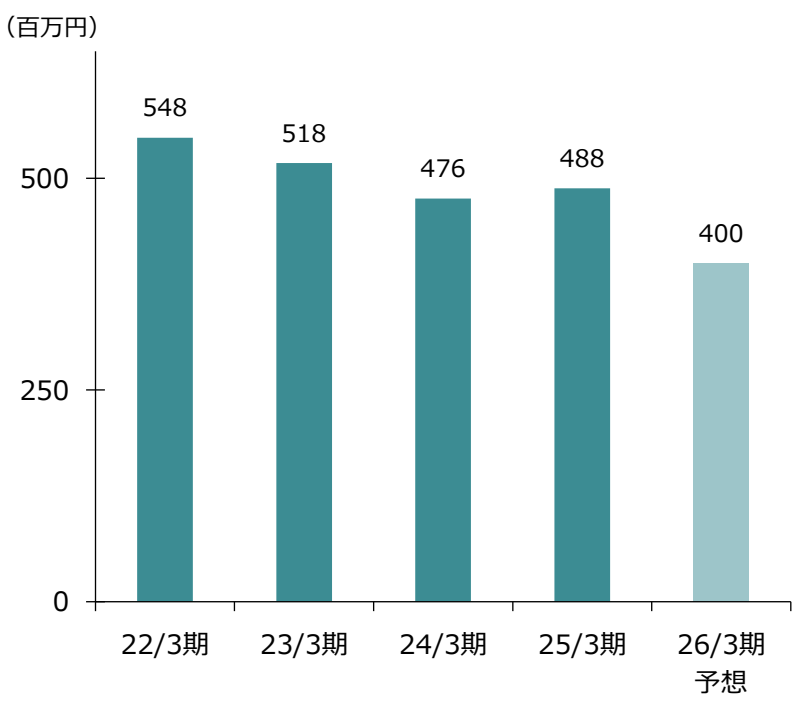
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、化成品事業において、前期に引き続き、台湾子会社の半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を実施（投資額 約30億円、台湾の生産能力４割アップ、2026年3月期に完工予定、年間償却費約4億円）。その他は主に維持更新投資が中心。
- 研究開発費は、主に開発センターにおける研究開発活動に係る費用。電子材料事業の放射性ヨウ素吸着剤等の研究開発は、2021年3月期から2025年3月期まで5年間実施し、一旦区切り。

設備投資･減価償却費



研究開発費



＜参考＞半導体向け高純度リン酸のリサイクル技術開発

半導体向け高純度リン酸のリサイクル技術確立と供給の安定化を目標

－経済安全保障推進法に基づく「供給確保計画」に認定－

今年度、設備の一部稼働開始、2027年度の商業化を目指し技術開発中

背景と目的

- 高純度リン酸は、半導体製造（前工程）でエッチング剤として使用される薬液で、半導体の需要拡大とともに高純度リン酸の需要拡大も見込まれる
- 原料の黄リンは全量輸入に依存しており、経済安全保障上の課題がある
- これらの課題に対応するため、使用済み高純度リン酸のリサイクル技術開発に着手

これまでの取組み

- 2023年7月、経済安全保障推進法に基づく「供給確保計画」に認定
- 助成金（最大助成額約1.6億円）を受けながら、大阪工場に精製設備を段階的に整備
- このほど設備の一部が完成し一部稼働を開始、2027年度の商業化に向け技術開発を進める

供給確保計画の概要

施設の所在地：大阪市大正区
設備投資額：約５億円
供給開始時期：2027年4月（予定）
生産能力：960ｔ/年

▶ 半導体向け高純度リン酸ではグローバルトップシェア

▶ リサイクル技術の開発を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、製品供給体制の安定化に取り組み、半導体産業の発展と日本の経済安全保障を支えます

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものとご理解下さい。

ーIRに関する問い合わせ窓口ー
ラサ工業株式会社　経理部
03-3258-1835